

次期総合計画策定に伴う講演会 「こころ豊かに暮らす」ための考え方と実践方法



2020年1月11日（土）

本日のスケジュール

- | | | |
|---|-----------|-------------|
| 1 | あいさつ | 13:00~13:05 |
| 2 | 基本構想案の提案 | 13:05~13:35 |
| | ~休憩~ | 13:35~13:40 |
| 3 | 前野教授による講演 | 13:40~15:00 |
| | ~休憩~ | 15:00~15:10 |
| 4 | ワークショップ | 15:10~16:00 |



基本構想 ～20年後の寒川町に向けたビジョン～

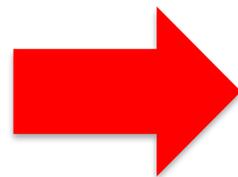
2020年1月11日



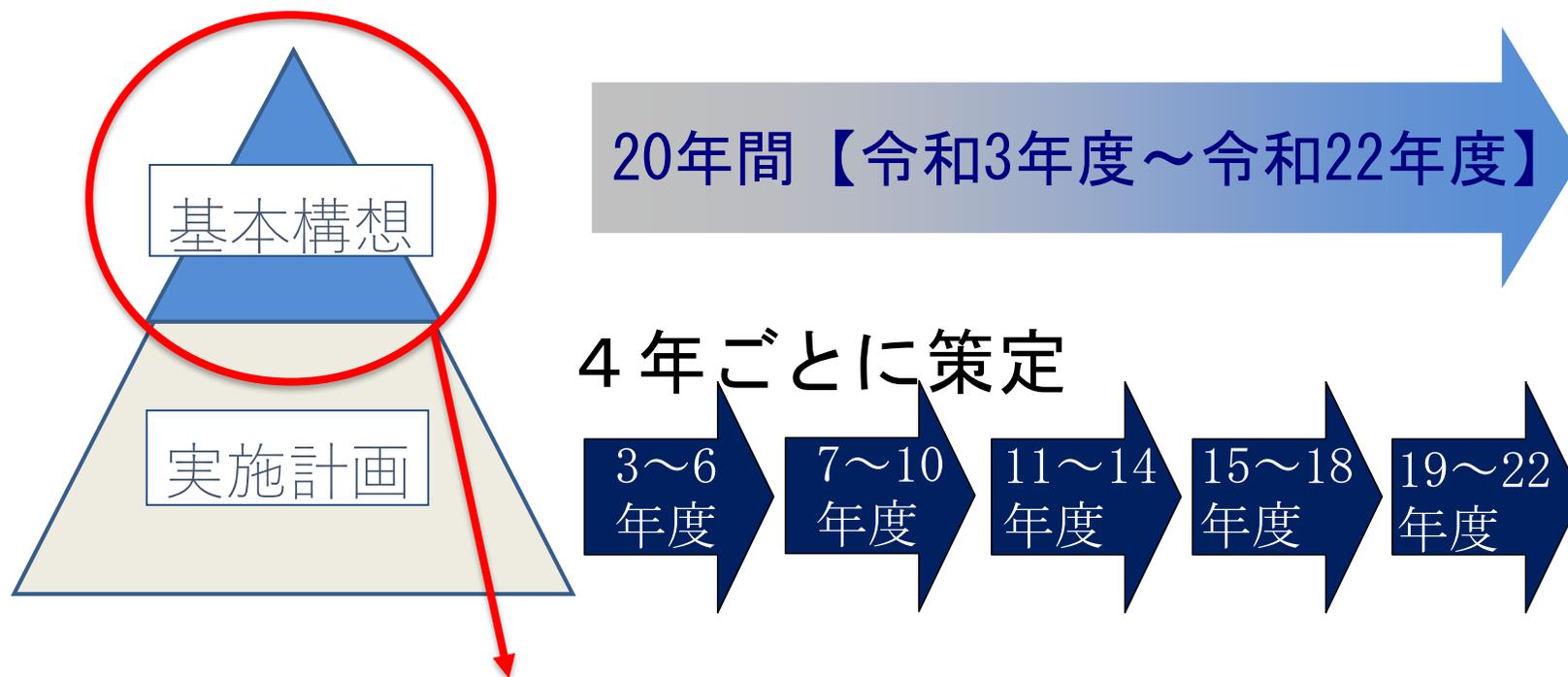
総合計画とは

総合計画

= 寒川町の最上位の計画。
まちの将来の姿やまちづくりの方向性を示したものの。



総合計画の構成



20年後の「まちの将来像」を明らかにし、
町民の皆さんと町が協力して、
住んでよかったといえる、活力と豊かさのある
町にするための20年後のビジョンのことです。

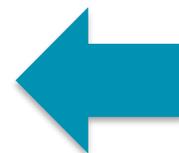


基本構想とは

まちづくりの理念

共通の理念を基に

まちの将来像



基本目標

まちのめざす将来像
を達成するために
効果的な基本目標を
位置付ける

基本目標を達成す
るために効果的な
政策を位置付ける



政策

基本構想（案）

～まちづくりの理念～

まちづくりの理念

共通の理念を基に

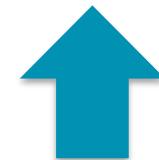
まちの将来像



基本目標

まちの目指す将来像を達成するために効果的な基本目標を位置付ける

基本目標を達成するために効果的な政策を位置付ける



政策

総合計画のまちづくりの理念 「町民と町が協働するまちづくり」



なぜなら

自治基本条例の自治の基本理念
「町民と町が協働するまちづくり」



まちの将来像の実現に向けて、町民と町が目指す「自治の基本理念」に基づき、町民と町の相互補完と協力によってまちづくりを進めていくことを「まちづくりの理念」とします。

基本構想（案）の提案

～まちの将来像～

まちづくりの理念

共通の理念を基に

まちの将来像



←

まちの目指す将来像を達成するために効果的な基本目標を位置付ける

↑

基本目標を達成するために効果的な政策を位置付ける

基本目標

政策

まちの将来像

(仮) 「つながる力で 新化するまち」



まちの将来像の示すもの

それぞれのキーワードの示す意味

(仮) つながる力 で 新化するまち

つながる力

- ①心のつながりによる幸せの連鎖
- ②多様な人・組織・モノのつながりを活用した魅力的な施策の連鎖
- ③町職員同士や、所属部課間のつながりによる効率的・効果的な行政運営

新化するまち

- ◆心豊かな暮らしができる町となるために、つながる場や機会を構築する。
- ◆人口減少という新しい時代に対応するために、持続可能な新たなまちづくりを行う。
- ◆創造性、生産性の高い自治体

つながる力【手段】

(寒川町の町民性、町民の望む町)

原動力

新化するまち【目標】

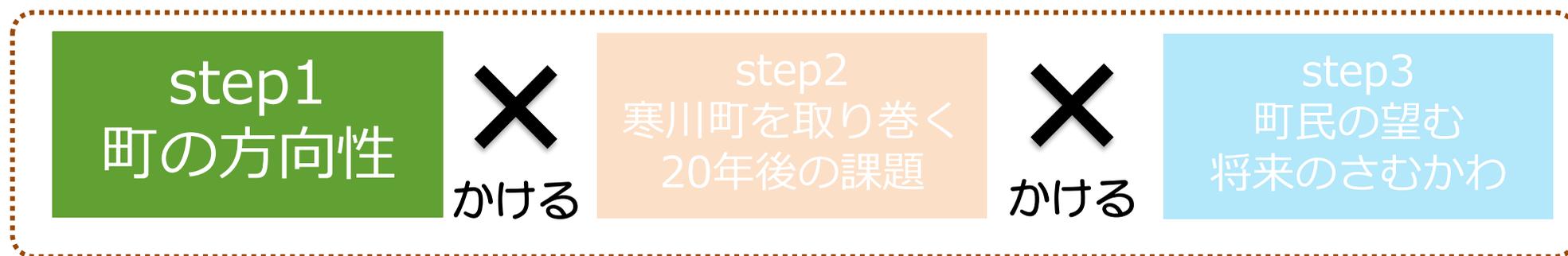
(理想とする状態、幸福度の高い状態)

まちの将来像のスローガン（仮）をどうやって導き出したか



3つのstepを踏まえて
まちの将来像を検討する

まちの将来像の策定にあたっての考え方




まずは
step1

町のブランド ～スローガン～

いい町と認識してもらい、移住定住を促進するためにブランディングによるまちづくりを行っています。

「高座」のこころ。

「高座郡」

その名に、品格と高い志を感じるこの地で
いにしえからさむかわの人々に受け継がれている
穏やかさ、優しさ、あたたかさが、
「高座」のこころです。

寒川町のブランド（寒川町のブランドの伝えたいこと）

誰でも「いい所ですね」、「カッコイイ」と言われたい。
しかし「東京価値」になることが本当に幸せでしょうか？

独自の価値 = ブランド化 ≠ 東京価値になること

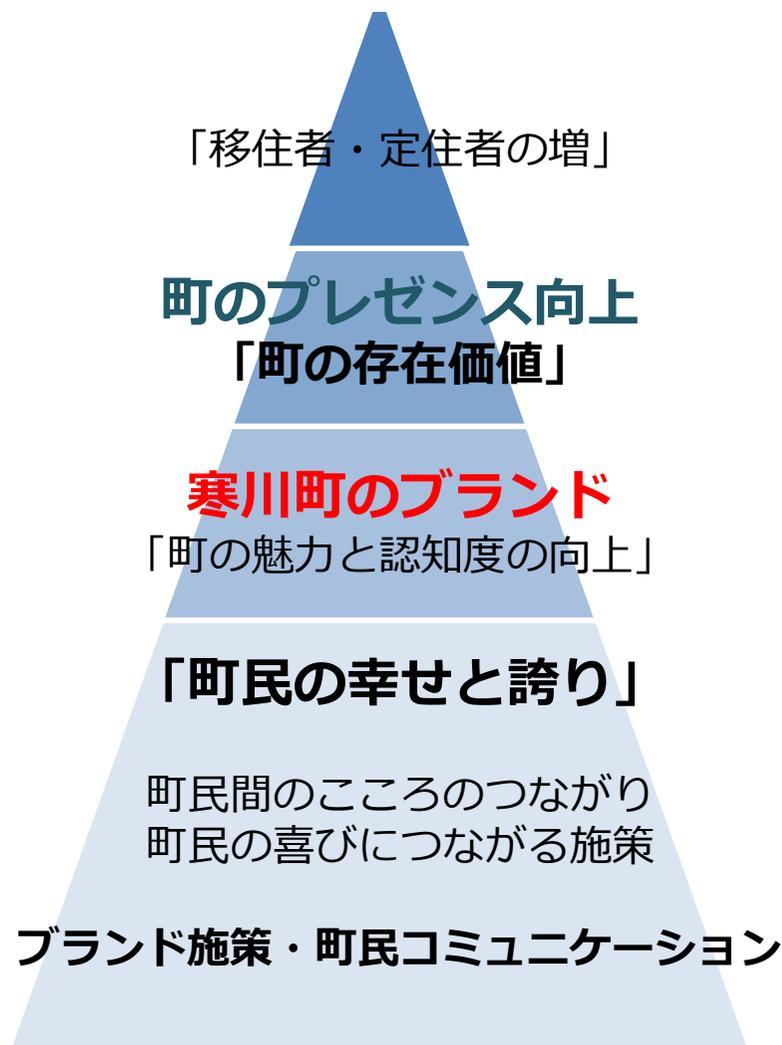
価値の基準で生きると次々欲望が出て、いつまでも満たされない。ステータス・バリューの考え方でなく、

**マインド・バリューを大切にするのが、
寒川町のブランド**

いにしえから続いてきた町民気質
「人間本来の生き方を大切にする」
「優しく温厚な町民同士の**こころのつながり**を大切にする」
「これにより、町民のこころが満たされ、幸せ感が高まる」

「高座」のこころ。

【ブランディングと移住定住の概念】



幸福学の観点から見たまちづくりについて

こころ豊かなまちづくりをするためには、町民の幸せは何かを知る必要があります。そこで、統計学に基づく幸福学の観点からも検討することとしました。

第1因子 自己実現と成長の因子 (やってみよう因子)

色々な研究結果に関連！



夢や目標を叶えた人は幸せ
夢や目標を持っている人は幸せ
努力し成長している人は幸せ

Takashi Maeno, Keio SDM

第2因子 つながりと感謝の因子 (ありがとう因子)

色々な研究結果に関連！



色々なことに感謝する人は幸せ
親切で利他的な人は幸せ
多様な友人を持つ人は幸せ

Takashi Maeno, Keio SDM

第3因子 前向きと楽観の因子 (なんとかなる因子)

色々な研究結果に関連！



自己肯定感が高い人は幸せ
楽観的でポジティブな人は幸せ
細かい事を気にしない人は幸せ

Takashi Maeno, Keio SDM

第4因子 独立と自分らしさの因子 (ありのままに因子)

色々な研究結果に関連！



人の目を気にしすぎない人は幸せ
自分らしさを持っている人は幸せ
自分のペースを守る人は幸せ

Takashi Maeno, Keio SDM

幸福度について（アンケート調査結果の全国平均比較）

寒川町民平均と全国平均の比較

やってみよう！

— 寒川平均

— 全国平均

ありのままに！

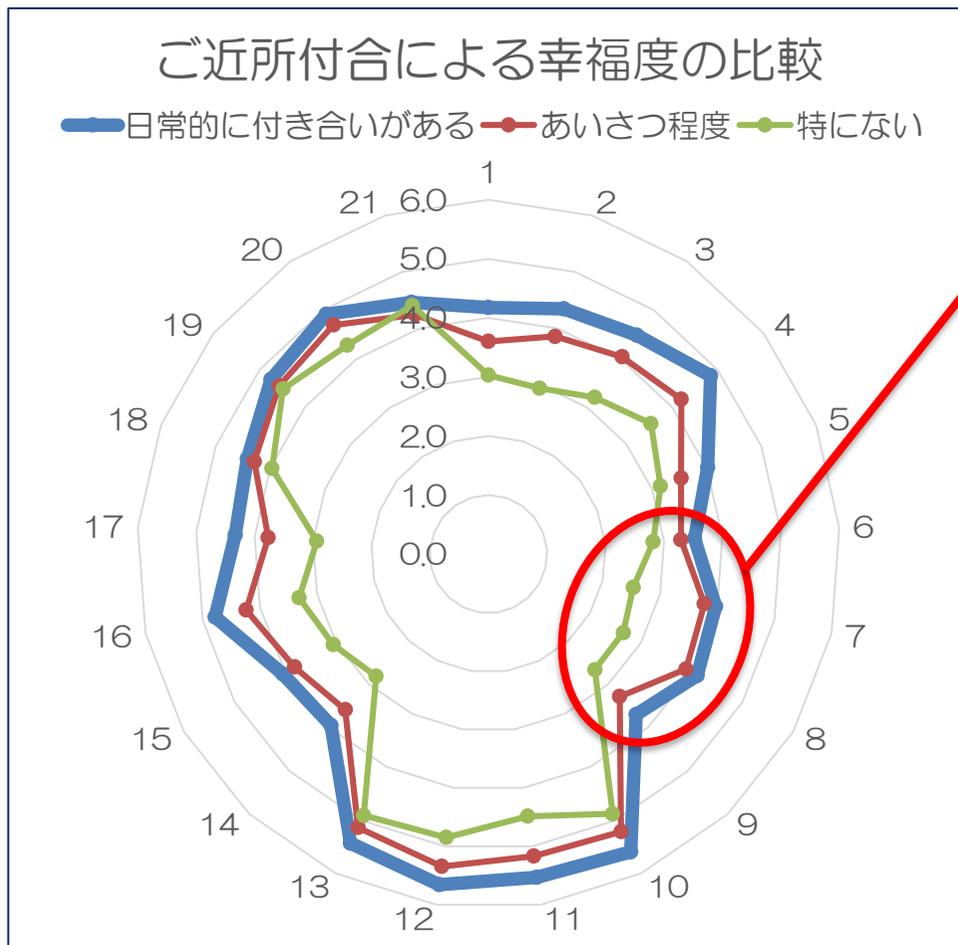
ありがとう！

なんとかなる！

全国平均と比較して寒川町民の幸福度は特に「やってみよう」因子の差が大きい

幸福度の向上（住民福祉の向上）を図るためには、「やってみよう」因子を引き上げていくことが効果的であると言えます。

幸福度について（アンケート調査結果から見る寒川町民の特性）



※設問

1～5：人生満足度の質問

6～9：やってみよう因子(自己実現と成長の因子)

10～13：ありがとう因子(つながりと感謝の因子)

14～17：なんとかなる因子(まえむきと楽観の因子)

18～21：ありのままに因子(独立とマイペースの因子)

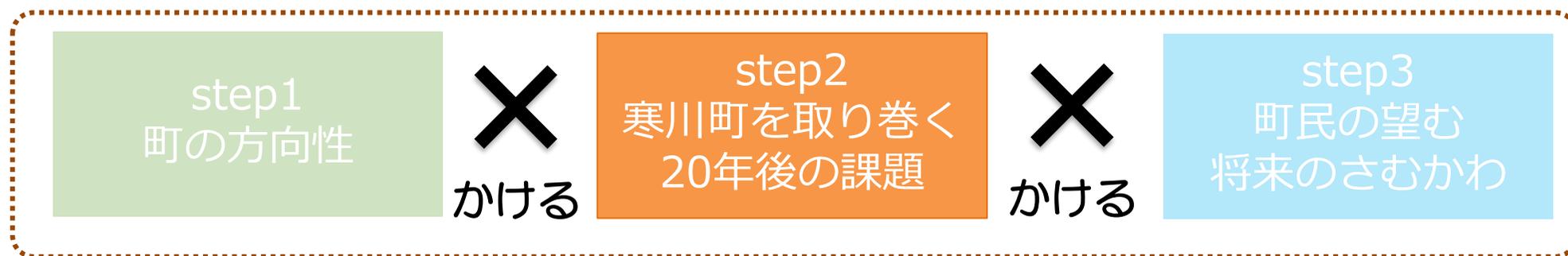
ご近所付き合い = ゆるやかな人とのつながり

このグラフから分かること（寒川の町民性）

- ・人とのつながりのある人の方が全体的な幸福度が高い傾向にある。
- ・特に「やってみよう因子」で大きな差が出ている。

寒川町の町民性の傾向として、ゆるやかな「ひとのつながり」を持つ人ほど、幸福度が高く、特にやってみよう因子が高くなる傾向がある。

まちの将来像の策定にあたっての考え方



↑
次は
step2

20年後の寒川町

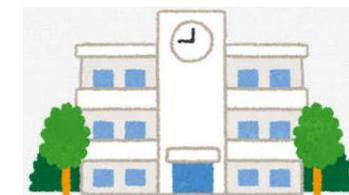
(1)人口減少、
少子高齢化



(2)町の裁量で使えるお金が減少！！



(3)老朽化した公共施設が
更新できない！！



(4)子どもの成長過程での
多様性・社会性の低下！！

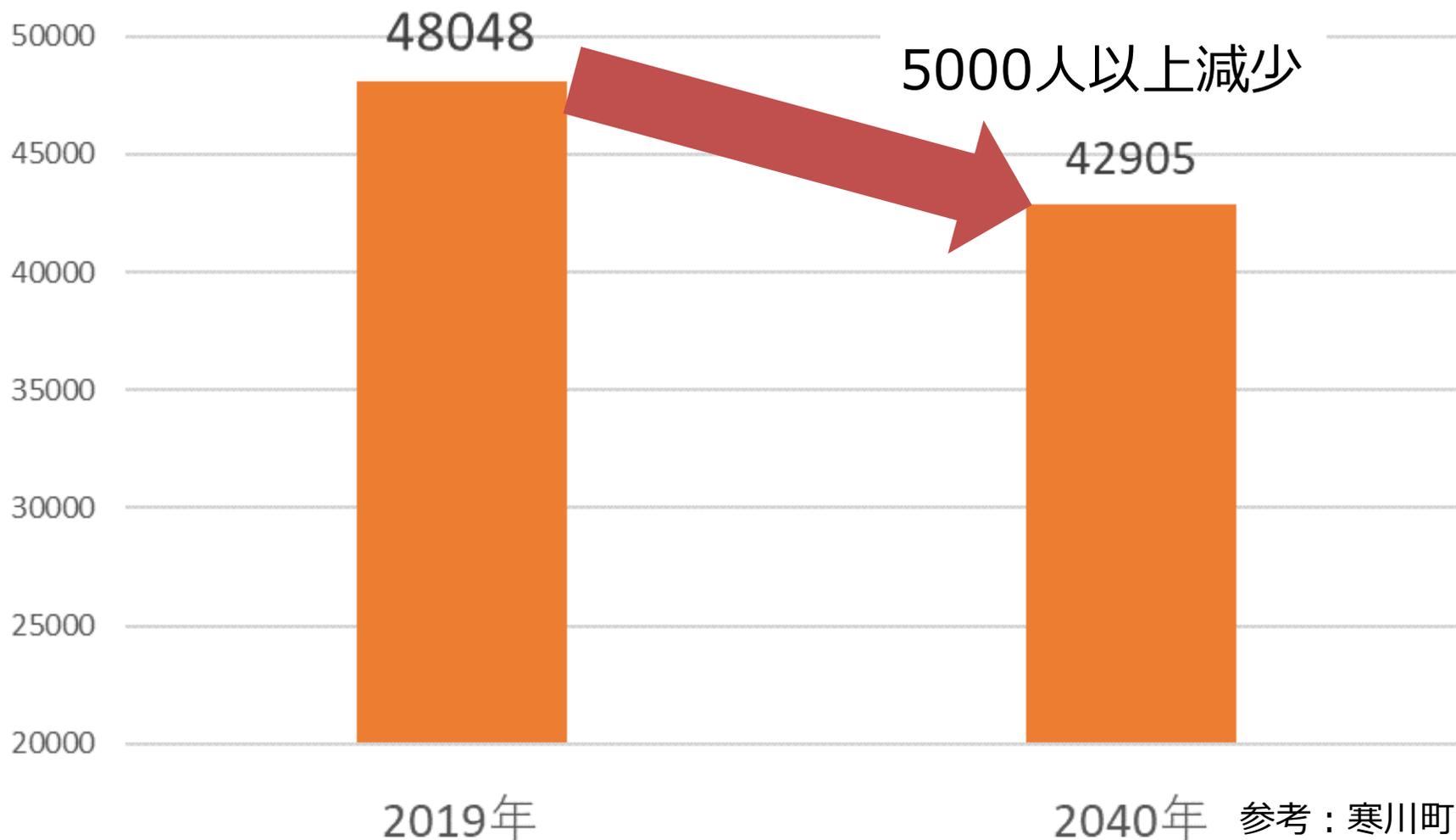


(1)により(2)～(4)の影響が出る

(1)人口減少、少子高齢化

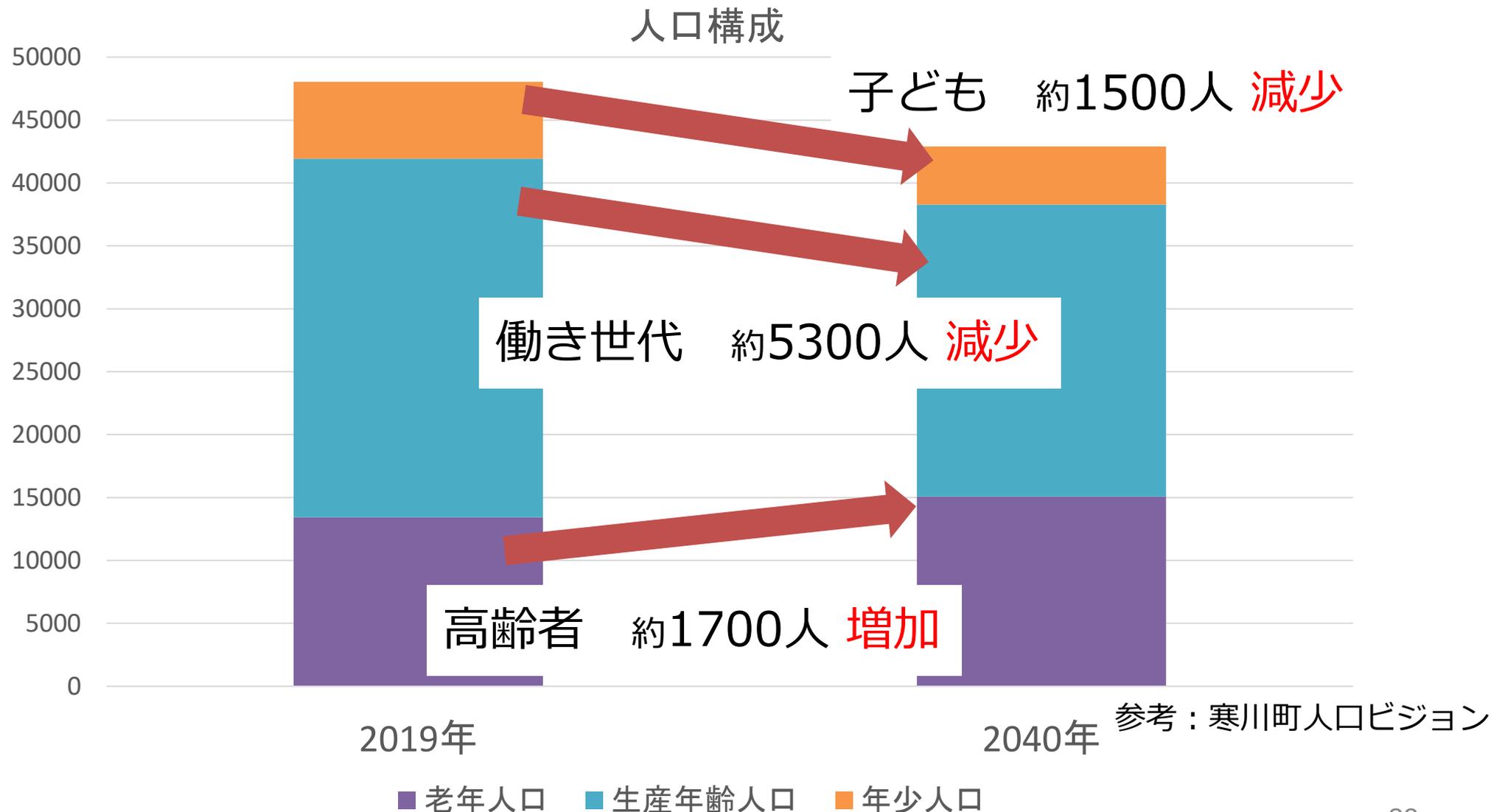
初めての人口減少！！

人口 人口減少率ピーク！！



(1)人口減少、少子高齢化

労働人口の減少幅のピーク！！
高齢者だけが増え、他は減る！！



(1)人口減少、少子高齢化

(高齢者を支える働き世代)

1980年



2020年



2040年



支えられる人口が下回る！！



働き世代7.4人



1人の高齢者を支える

働き世代 2.1人



1.5人

働き世代1人当たりの

負担額 約3万2千円



約4万円

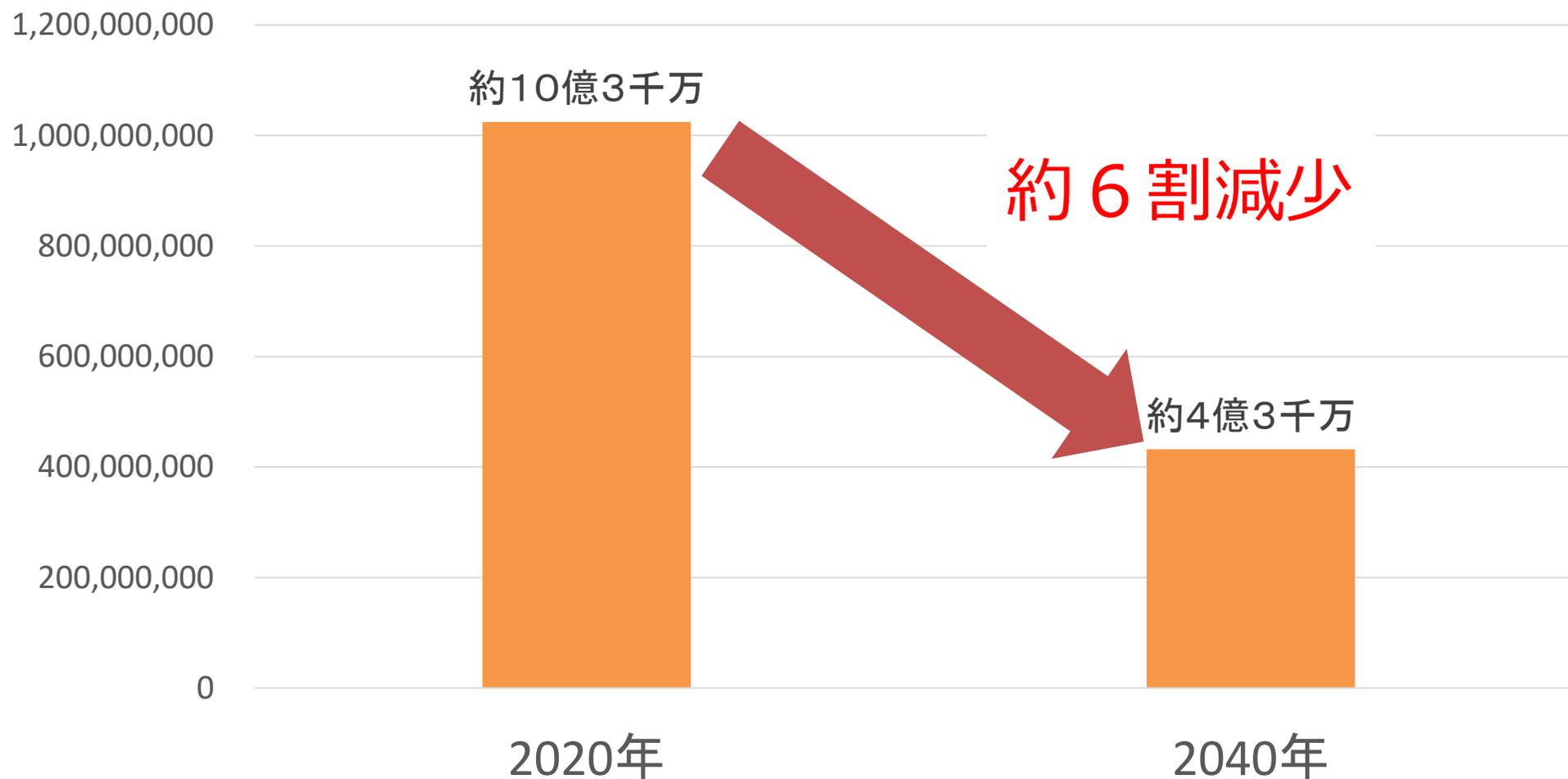
(高齢者福祉費)

参考：寒川町人口ビジョン

(2)町の裁量で使えるお金が減少！！

町の裁量で使えるお金とは、町税から
義務的経費（人件費、借金、扶助費）を引いた額

町の裁量で使えるお金

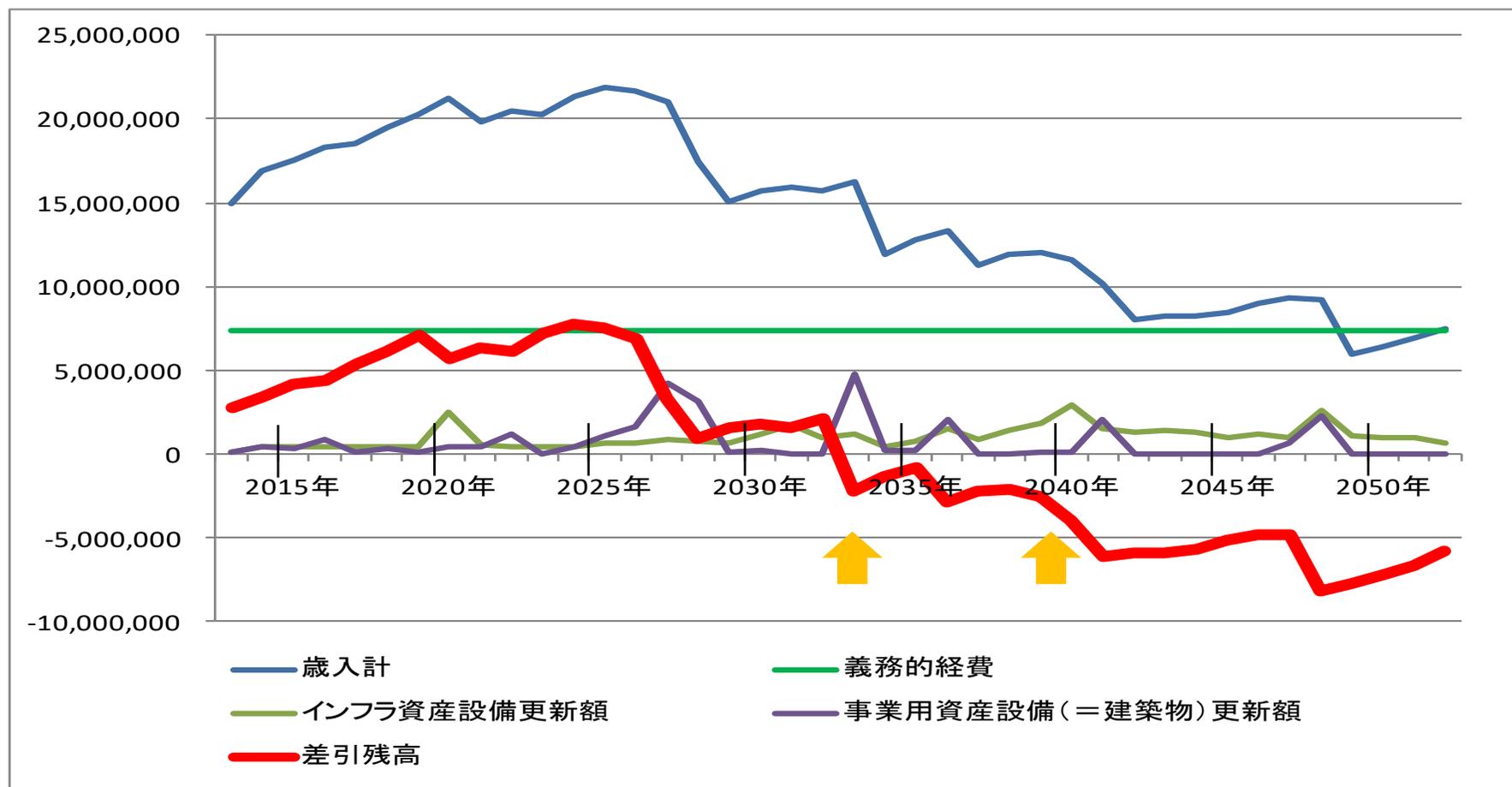


参考：寒川町人口ビジョン

(3)老朽化した公共施設が更新できない！！

2033年に資金不足に。
2040年に25億円が不足する！！

寒川町の公共施設更新に係る財政シミュレーション (老朽化して危険な公共施設を全て更新した場合)



(4)子どもの成長過程での多様性・社会性の低下！！

学級数の推計	R2(2019)年4月	R22(2040年)	減少率
寒川小学校	18	14	-22.2%
一之宮小学校	12	6	-50.0%
旭小学校	21	18	-14.3%
小谷小学校	15	12	-20.0%
南小学校	18	12	-33.3%
計	84	62	-26.2%
寒川中学校	9	6	-33.3%
旭が丘中学校	16	13	-18.8%
寒川東中学校	12	9	-25.0%
計	37	28	-24.3%
総計	121	90	-25.6%

寒川町公共施設再編計画（第1案）より引用

成長過程における多様性・社会性が失われる恐れ！



町民性（心優しさ、心のつながり）の喪失

学級数の減少

教育環境への影響

クラス替えができず人間関係が固定化

多様なものの見方や考え方に触れることが難しい

社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい

20年後の寒川町



人口減少、労働人口減少のピーク
高齢者1人を約1.5人で支える

町の裁量で使えるお金が減少！！



公共施設が更新できない！！

2033年には、資金不足に。
2040年には、25億円が不足する！！



子どもの成長過程での 多様性・社会性の低下！！

クラス替えができず人間関係が固定化
多様なものの見方や考え方に触れることが難しい
社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい



20年後を見据えた総合計画策定の考え方

行政活動の最も重要な目的は「住民福祉の増進」です。

現在の寒川町は様々な課題に直面していますが、その中において住民の心豊かな暮らしを保障するためには、持続可能な行財政運営を確保しなければなりません。

そのために、現在、一番に取り組むべき課題は「急激な人口減少・少子高齢化」への対応です。

基本的な人口構造を国とほぼ同じくする寒川町においては、2040年頃において多様かつ急激な変化が予想されます。

そこで、令和3年度以降を計画期間とする総合計画においては、この**大きな課題に対応しつつ、20年後においても町民が寒川町において「心豊かに暮らしている」状態**を目標として計画を策定します。

まちの将来像の策定にあたっての考え方



↑
次は
step3

町民ワークショップ

講演会と9回のワークショップを実施
のべ178名の方が参加

【開催経過】

8月18日：①幸福学に関する講演会（キックオフ）

8月31日：②全体ワークショップ

9月23日：分野別ワークショップ

③景観・環境

④健康・子育て・高齢・障がい

9月28日：分野別ワークショップ

⑤防災・防犯・交通安全

⑥教育・スポーツ・生涯学習/文化

⑦商工業・農業・観光

10月22日：地区別ワークショップ

⑧北部（倉見、小動、小谷、大蔵）

⑨中部（宮山、岡田）

⑩南部（田端、一之宮、大曲、中瀬）

Step 3 将来を語り合う ～町民が望む将来の寒川～

ワークショップで分かったこと

寒川の生き生きと明るい人のつながり 対話するきっかけが欲しい。 音楽にあふれるまちづくり
何となく出てきて居られる場がある 自分らしく生きている人と出会える町 立寄る場所が多いまち
地域やみんなが協力して楽しく過ごせるまち ワークショップのようなイベントが多い町
自然と助け合いが連鎖する場所 誰でもいていい場所 新しい人も若い人も入れるコミュニティ
外国から移住した方も含めて多様な交流ができていくまち 世代間、地域を超えた交流の盛んなまち

人がつながるきっかけ
居場所づくり

お互いを気づかうまち 地域やみんなが協力して楽しく過ごせるまち 人があふれるまち
ご近所で助けあえる（防災体制） 寒川町のいいところ みんなが知り合い挨拶が行きかう町
町民が町民にやさしい町 世代を超えて助け合える町 すでに人のあたたかさを感じている

人のあたたかさを
感じるまち

自然にふれあえるまち 都会的でなく、癒しになるようなまち 自然あふれる快適なまち
富士山の姿をもっと身近に感じられるまち スーパーなどでも地元の野菜が買えるまち
「高座」のころ。が感じられるようなまち木、花を増やす 緑が多い寒川町
子どもたちが安心して川遊びをできるまち 神社と川を活用したまちづくり

落ち着いたくらしが
できるまち

チャレンジできるまち 全世代が活動しやすいまち イベントが充実しているまち
町中がいろんな声であふれているまち 思い切り遊べる場所があるさむかわ
様々な遊びができる空間が保持されている 知恵のまちさむかわ（高齢者活用）

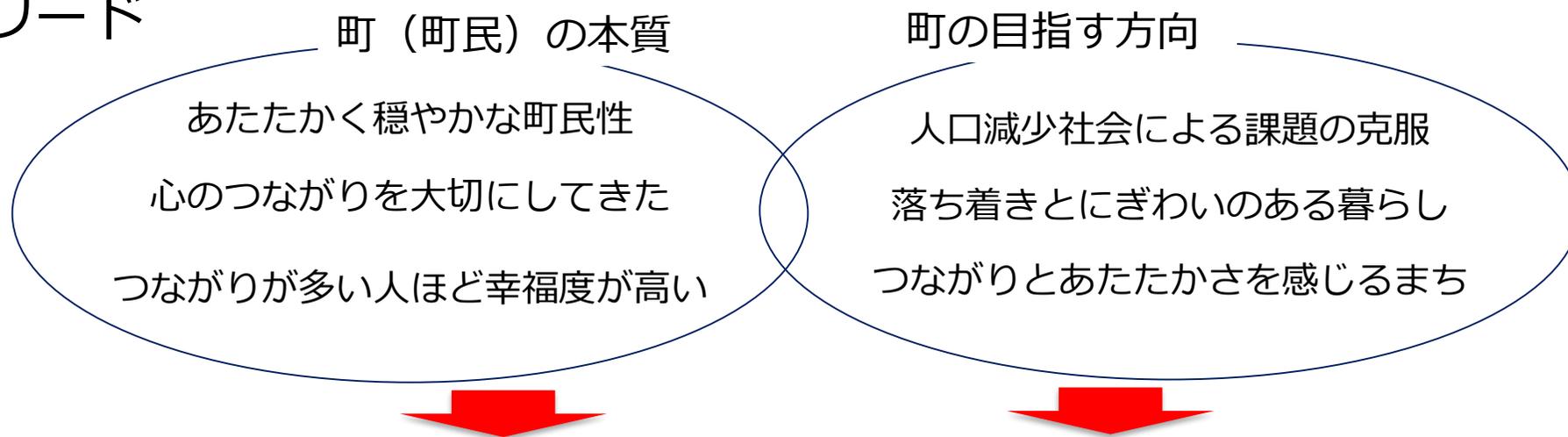
にぎわいのある
まち

傾向として「人のつながり」「あたたかさ」、暮らしに関しては「落ち着き」「にぎわい」を感じられる暮らしがしたい方が多いということが分かりました。

まちの将来像の策定にあたっての考え方



キーワード



つながる力で新化するまち

町民の求めている「つながり」（絆）を作るだけでなく、それを力にして人口減少社会による大きな**課題を乗り越え、共に**こころ豊かな（住民福祉の向上）まちを実現するために、新化していく。

基本構想（案）の提案

～基本目標と政策～

まちづくりの理念

共通の理念を基に

まちの将来像

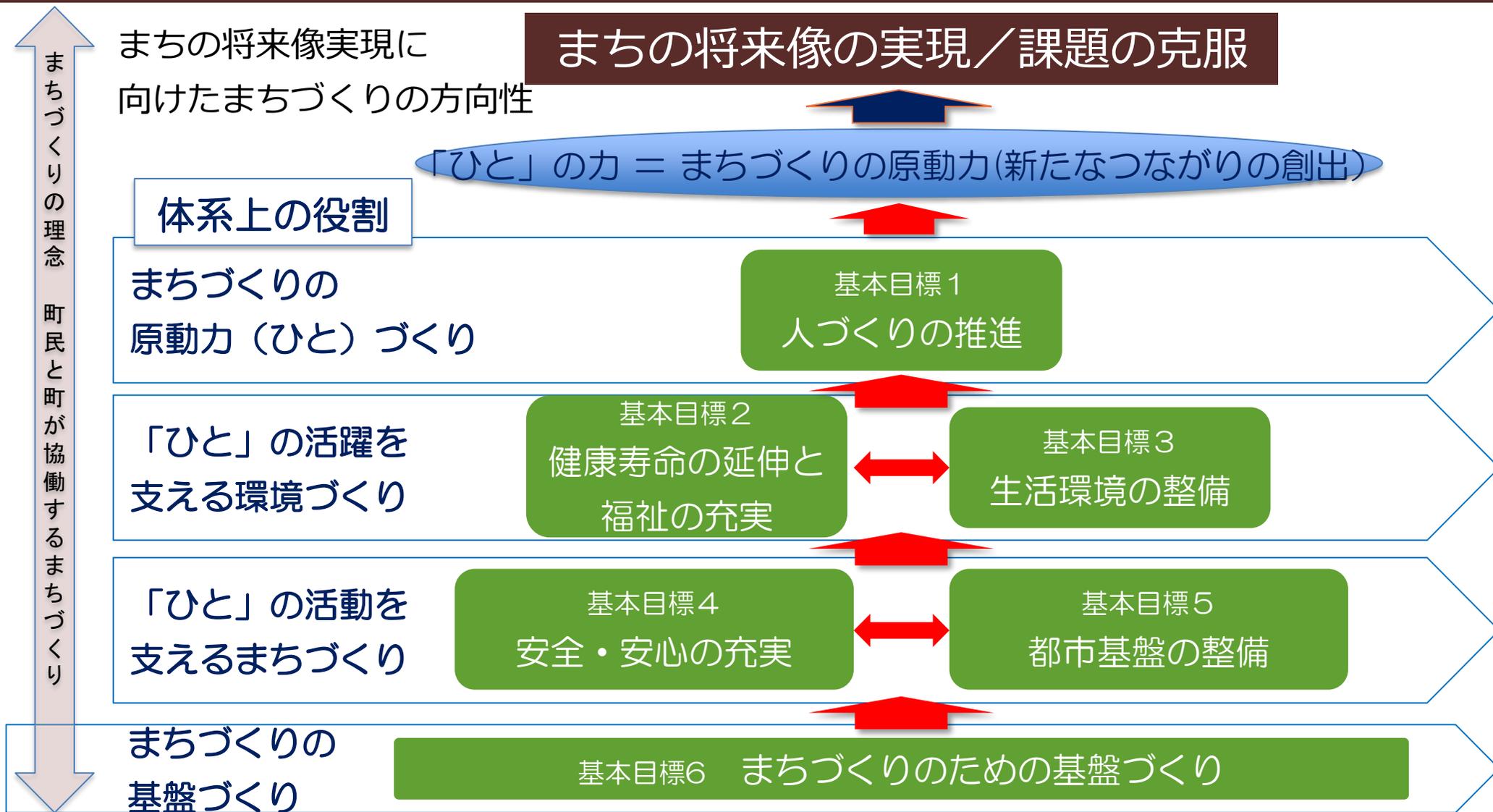


まちの望む将来像を達成するために
効果的な基本目標を位置付ける

基本目標を達成するために効果的な政策を位置付ける

基本目標

政策



まちの将来像の実現（課題克服）に向け、「基本目標1」の「人」が大きな原動力となり、そのための環境整備を「基本目標2・3」が担い、それを支えるまちづくりを「基本目標4・5」が行う。それらの活動の基盤を「基本目標6」で作り上げる。

まちの将来像
（つながる力で新化するまち）

6つの基本目標

13の政策

1 まちづくりの原動力となる
ひとづくり

- (1) 子育て・子育て・教育の推進
- (2) 生涯を通じた学びと自己実現の促進

生涯にわたって
2自分らしく暮らせる
まちづくり

- (1) 健康寿命の延伸
- (2) 福祉の充実

3 ところ穏やかに暮らせる
まちづくり

- (1) 自然環境の保全
- (2) 住環境の整備

4 安全・安心に暮らせる
まちづくり

- (1) 安全・安心の充実

時代に最適化した
5にぎわいのある
まちづくり

- (1) 都市インフラの最適化
- (2) 市街地の整備
- (3) 産業基盤の整備

6 まちづくりのための
基盤づくり

- (1) つながる力の促進
- (2) 持続的かつ健全な行財政運営
- (3) 行政の健全性の確保

基本目標 1（第 1 章）

「まちづくりの原動力となるひとづくり」（ひとづくりの推進）

まちづくりにおいて最も重要な「ひと」づくりを進めます。

政策 1（第 1 節） 「子育て・子育て・教育の推進」

寒川町の子どもたち一人ひとりが、心身ともに健やかに成長し、生きる力と寒川町の特徴である心豊かな人間性を備えて生涯にわたり活躍できるよう、地域社会全体で子どもの成長と子育てを支える環境を整えるとともに、創意あふれる教育の振興を進めていきます。

政策 2（第 2 節） 「生涯を通じた学びと自己実現の促進」

町民のだれもがいつでも自由に学びあい、教えあうことによって、個性や能力を伸ばしていく生涯学習の環境を充実させていくとともに、寒川町の「優しさ」や「あたたかさ」を生み出してきた町固有の歴史や文化、伝統を守り、後世に伝えていくとともに、将来の寒川町に向かっていく新たな文化の創造をめざしていきます。

基本目標 2（第 2 章）

「生涯にわたって自分らしく暮らせるまちづくり」

（健康寿命の延伸と福祉の推進）

見込まれる急激な社会環境の変化に対応しつつすべての町民が自分らしく暮らしていける心豊かなまちづくりを進めていくための原動力を創出します。

政策 1（第 1 節） 「健康寿命の延伸」

町民の健康寿命の延伸に資する取り組みを進めるほか、医療、保健・予防体制の充実と高齢者の生きがいづくり、そして町民自身の健康づくりに対する意欲を高めるなど、心身の健康づくりを進めます。

政策 2（第 2 節） 「福祉の充実」

思いやりや助け合いといった人のつながりによる地域福祉を推進していくとともに、福祉と保健・医療の連携を図り、地域社会全体での総合的な福祉の充実に努めます。

基本目標 3（第3章）

「こころ穏やかに暮らせるまちづくり」（生活環境の整備）

寒川町の「ひと」がこころ穏やかに暮らし、明日への活力を得るための環境整備を進めます。

政策 1（第1節） 「自然環境の保全」

寒川町特有の川や自然環境の保全と活用、心のやすらぎと交流の場となる公園や緑地等の活用、また、次世代に良好な環境を継承していくため地球環境にも配慮したまちづくりを進めます。

政策 2（第2節） 「住環境の整備」

地域における環境美化の推進や廃棄物の減量化、資源の有効活用を進めるとともに、今後の急激な社会環境の変化により見込まれる空き家の増加など、都市のスポンジ化への対応も見据えながら、景観や快適性に配慮したまちづくりを進めます。

基本目標 4（第4章）

「安全・安心に暮らせるまちづくり」（安全・安心の充実）

町民の心豊かな暮らしを保障するための安全・安心のまちづくりを進めます。

政策 1（第1節） 「安全・安心の充実」

公助の取り組みだけでなく、地域における自助、共助の精神をはぐくみ、人のつながりによる防災、防犯体制の推進に努めるとともに、今後見込まれる急激な高齢化、人口減少による消防・救急需要の増加に対応するための体制整備を行いすべての町民が安心して暮らせるまちづくりを進めます。

基本目標 5（第5章）

「時代に最適化したにぎわいのまちづくり」（都市基盤の整備）
急激に変化する社会経済環境の中で最適化を図りながらにぎわいを創出するまちづくりを進めます。

政策 1（第1節） 「都市インフラの最適化」

町民の生活利便性等の向上や産業の活性化のために、町内外のつながりを生み出す公共交通や幹線道路等の整備を促進しつつ、持続可能性を重視した道路・橋りょうや下水道等の維持更新を効率よく進めていきます。

政策 2（第2節） 「市街地の整備」

田端西地区のまちづくりの整備や、ツインシティ倉見地区の新たな可能性を創造する市街地の整備など、町内はもとより町外とつながることで新たな可能性を生み出し、にぎわいと魅力を創出できる市街地の整備を進めます。

政策 3（第3節） 「産業基盤の整備」

町外との交通利便性を生かした産業基盤の整備と、地域の中ではぐくまれてきたにぎわいと町を支える商工業、地域の特性を生かした農業の振興を図ります。また、寒川町固有の歴史と文化や新たな地域資源を生かし、町内外のつながりを生み出す観光の振興を図ります。

基本目標 6（第 6 章）

「まちづくりのための基盤づくり」（まちづくり基盤の整備）

まちづくりの基盤となる「ひと」のつながりの創出や持続的かつ健全な行財政運営を推進します。

政策 1（第 1 節） 「つながる力の促進」

地域における新たなコミュニティの創出や、町民と行政、そのほか多様な「ひと」や「もの」との連携・協働によるまちづくりを推進することにより、つながる力を育んでいきます。

政策 2（第 2 節） 「持続的かつ健全な行財政運営」

今後、見込まれる急激な社会環境の変化に対応し、まちづくりを効果的・効率的に行うためには、その基盤となる組織づくりを行いながら、持続的かつ健全な行財政運営の推進を図って行く必要があります。

政策 3（第 3 節） 「行政の健全性の確保」

多様な視点から行財政運営のチェックを行い、行政の健全性と正確性の確保に努めます。